

まっちゅうへ

公立松任石川中央病院

ようこそ



presented by 白山石川医療企業団



①

地域医療支える

「ハブ病院」

をけん引しています。

災害拠点病院として安心・安全な医療提供体制を整備する使命も担っており、最新の医療機器やデジタル技術も導入して、患者ファーストの良質な医療を提供しています。

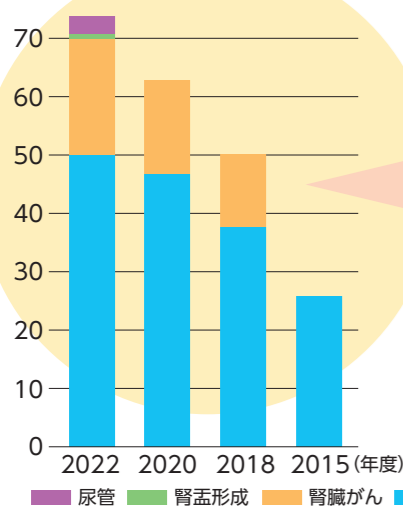
「まっちゅう」の愛称で親しまれる公立松任石川中央病院の特色を毎号、紹介します。

公立松任石川中央病院は、白山、野々市、川北の3市町で暮らす人々の健康な生活を支える「ハブ病院」として、さまざまな取り組みを推進しています。

同病院を運営する白山石川医療企業団の公立つるぎ病院や、吉野谷・中宮・白峰の3診療所はもちろん、住民の「かかりつけ医」とも連携し、地域包括ケアシステムの構築



泌尿器科分野における
ロボット手術件数の推移



泌尿器科分野では約3倍に

2015(平成27)年、北陸の医療機関でいち早く「ダビンチ」を導入した公立松任石川中央病院では、前立腺がんの全摘手術から対応を始めました。初年度は26件だった手術件数は、腎臓や腎盂、尿管への導入の広がりとともに増え、22(令和4)年度では合計で約3倍となる74件の手術が行われました。精密で正確なロボット手術により、合併症の軽減や早期社会復帰などに貢献しています。

私たちがロボット手術にあたります
チーム外科



石井 要 部長
(看護師特定行為研修センター長)

山口 紫 医長

尾山 勝信 病院長代理

林 健太郎 医師

山崎 祐樹 医長

主に胃がんを担当しています。ロボット手術により、早期回復と根治性の両立を追究して診療にあたっています。

南 宏典 医長

大腸が専門です。患者さんに寄り添った、安全で質の高い治療を目指して、いつも笑顔で診療にあたっています。

中村 慶史 部長(救急医療部長)

金大附属病院で15年間、大腸がんを専門に診療してきました。今後は当院の患者さんにその技術と経験をご提供していきたいです。

結腸がんの手術は昨年8月から今年6月までに25例行いました。ロボットには手ぶれ防止機能が付いており、より安全に腸管を体内で切り離したり、つなぎ合わせたることができます。

胃がんの手術では、背中側にある脾臓へのダメージを与えず、合併症の危険性軽減も期待できます。2021年4月から今年6月までに、53例を実施しました。

技術磨く「チーム外科」

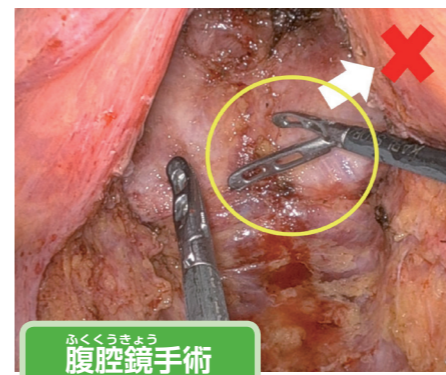
「ダビンチ」の活用により、周囲の臓器を傷つけるリスクが減って安全性が増すとともに、がんをしっかり切除することがいづれの手術でも可能となります。執刀を担う「チーム外科」の医師たちは、より多くの患者さまにロボット手術を高いレベルで提供できるよう、修練を積みながら治療にあたっています。

チーム外科を率いる尾山勝信病院長代理は「ロボット手術は将来的に適用範囲が広がっていくと思う。操作ができる医師の育成にも力を入れていきたい」と話しました。

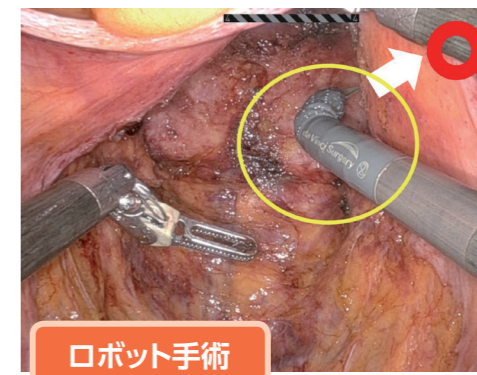


【ダビンチ】

手術支援ロボット。四つのアームの先に取り付けた鉗子とカメラを患者の体内に挿入し、パイロットと呼ばれる執刀医は3Dモニターを見ながら遠隔操作で装置を動かす。不可能とされていた角度からの視野確保と、鉗子の自在で細密な動きにより、狭い部分の手術が可能になった。出血量が少ない、傷口が小さい、回復が早いなど、患者へのメリットも大きい。



腹腔鏡手術



ロボット手術

腹腔鏡手術に比べ、ロボット手術では鉗子の動きが自在であることが分かります

新たに始まった直腸がんのロボット手術では、排尿や排便、性功能をつかさどる神経を温存しながら、骨盤という狭い空間にあるがんを、ゆとりをもって取り除くことができます。3Dカメラとロボットならではの多関節機能により、開腹手術や腹腔鏡手術では困難だった骨盤深部での操作が可能になりました。

これまで胃がん、前立腺がんが中心でしたが、昨年8月、石川県内でいち早く開始した結腸がんにも導入。大腸がんは大きく結腸がんと直腸がんに分類されますが、これにより、全ての大腸がんを「ダビンチ」で手術できるようになりました。

白山石川医療企業団の中核を担う公立松任石川中央病院では、手術支援ロボット「ダビンチ」を積極的に活用し、患者の身体的な負担が少ないがん手術に取り組んでいます。

全ての
大腸がん手術はダビンチで

結腸がんも直腸がんも！